

ご長寿をお祝いして 平成25年度数え年100歳訪問

今年で数え年100歳を迎える市内の長寿者を顕彰しようと9月17日(火)、清水市長や井上老人福祉センター所長が対象者を訪問しました。この顕彰は毎年行っているもので、今年は大正3年生まれの人を対象としています。

関係者は市内対象者8人の家庭・施設を訪れ、対象者一人ひとりと懇談し、記念品の贈呈などを行いました。対象者の一人である、長浜町仁久在住の田中マスヨさんを訪問した清水市長は「今年の夏はとても暑くて、体調管理が大変



だったと思いますが、体調は崩されませんでしたか。これからおいしいものを食べて、元気で長生きをしてください」と話しました。清水市長の言葉に田中さんは「最近足が弱くなりましたが、今まで大病することなく過ごしてきました。毎日夕方の時代劇を見るのが楽しみです。これからも元気に過ごしていきたいと思います」と述べられました。



市道天貢線宇津橋開通式典

市道天貢線宇津橋開通式典が、9月20日(金)に菅田公民館で行われました。

式典では、清水市長が「菅田地区では、洪水の被害に悩まされてきた。今回の宇津橋開通と、整備中の堤防工事が完成することで、菅田地区の治水対策がかなり進むことになる。地域の人々が安心安全に生活できるように、早急に事業を進めていく」と述べ、開通に協力された23人に感謝状が贈呈されました。

地元を代表して、中野伸一^{しんいち}菅田地区区長会長が「菅

田地区の住民にとって待望の日になった。毎年のように洪水に見舞われ、板野橋や周辺道路がすぐに通行止めになるなど、不安な中で生活をしてきた。今回宇津橋が開通したことで、通行止めの心配もなくなり地域の交流や物流なども盛んになり、地域が飛躍的に発展すると思われる」とお礼の言葉を述べられました。

その後、現地において、県や市の関係者、地元住民約150人参加の下、開通記念行事としてテープカット、くす玉開披と通り初めを行い、新しい橋の開通を祝いました。



第25回わらじで歩こう坂本龍馬脱藩の道



「龍馬を語る夕べ」が9月21日（土）、河辺ふるさとの宿で長崎市立シーボルト記念館織田毅館長を講師に迎え開催されました。講演では織田館長が、「坂本龍馬という丸——資料にみる、いろは丸という丸沈没事件——」と題し、平成23年に発見されたいろは丸購入契約書や、いろは丸について最近分かったことなどを話され、参加者は熱心に聞き入っていました。

翌日22日（日）には、「第25回わ



らじで歩こう坂本龍馬脱藩の道」が行われました。河辺ふるさと公園で行われた出立式では、参加者を代表して八幡浜市から参加の大久保謙次さんと、千葉県から参加の井上幸三さんが完全踏破宣言をしました。253人の参加者は、Aコース（榎ヶ峠・泉ヶ峠）とBコース（河辺ふるさと公園・泉ヶ峠）に分かれ、涼しい風が吹く秋晴れのなか、それぞれのペースで気持ちよく歩きました。

「黒野城と加藤貞泰公研究会」との交流会

大洲史談会と岐阜市「黒野城と加藤貞泰公研究会」との交流会が10月2日（水）～3日（木）、大洲市内で開催されました。

加藤貞泰初代大洲藩主が若き日に黒野城主を務めていたことがきっかけで、昨秋、大洲史談会が黒野を訪問したことから、この交流会は始まりました。

大洲城本丸で行われた歓迎セレモニーでは、大洲史談会の村上恒夫会長が「これからも歴史、文化を中心にして多方面での交流につながることを願いたい。大洲の秋を堪能していただきたい」とあいさつ

されました。これに対し、黒野城と加藤貞泰公研究会の郷孝夫会長は「ともに初代藩主が貞泰公ということで、これからも情報交換をし、強い絆を結んでいこう」と述べられ、油彩画と和傘、パネルが贈呈されました。

その後、肱南公民館大ホールで、山田広志学芸員による「加藤貞泰と大洲」と題して発表があり、両歴史研究会の意見交換が行なわれました。

両地域の歴史研究会では、今後も交流を続けていく予定です。



愛媛産乾シイタケをおいしく食べて

「愛あるブランド愛媛県産原木乾しいたけ贈呈式」が9月19日（木）、大洲小学校体育館で行われました。

この事業は、愛媛産の「安心・安全」な原木乾シイタケを、おいしく食べてほしいという願いから、愛媛県森林組合椎茸生産者連絡協議会が昨年度から実施しているもので、県内では2例目になります。

贈呈式では岡田大洲小学校長が「シイタケに含まれる栄養素は、小中学生の成長に欠かせないものです。おいしく食べて元気に育つ



てほしい」と話されました。

児童を代表して、大洲小学校6年生の山本あかねさんが「シイタケは食感が少し苦手だが、とても栄養があり私たちの健康にも良いことが分かった。これからは苦手を克服したいと思う。贈ってもらったシイタケを生産者の人に感謝をしながら食べたいと思う」とお礼の言葉を述べました。

この日は、「どんこ」と「こうしん」という2種類の乾シイタケが合わせて30kg贈られました。大洲市学校給食センターでは、今後小中学校の給食に取り入れることにしています。

高齢者叙勲



野 戸 司 郎 さん
(菅 田)
元大成小学校長

野戸さんは、長年にわたり学校教育にご尽力されたご功績により、このたび瑞宝双光章を受章されました。

瑞宝双光章

観光いも園がオープンしました

上須戒地区にある松久保団地で9月18日(水)、観光いも園の開園式が行われました。地元の上須戒保育所、小学校の児童21人が招待され、各自スコップを使い、土まみれになりながら、たくさんのサツマイモを掘り出しました。

観光いも園の古宅会長はあいさつで、「今年の夏は雨が少なく気温も高かったため、その影響も心配されたが例年並みの収穫が望める。秋の行楽にぜひ利用してもらいたい」と話されました。

この観光いも園は、11月上旬まで楽しむことができます。



※栄養価も高く、美容と健康に効果が期待できます。

がんばる大洲企業



愛媛養豚実証農場

伊予スワインガーデン

「安心・安全で、高品質な豚肉を消費者に提供する」

当農場は、JAグループ会社の一つで畜産用配合飼料の生産・販売を行っている、「JA西日本くみあい飼料株式会社」の養豚実証農場として、平成24年5月に竣工しました。

宇和島市にある自社工場で製造した養豚用配合飼料を豚に与え、飼養管理全般に関する研究をしています。現在は、21人の従業員で母豚約1000頭（常時飼養頭数1万頭）を飼養し、年間約2万5000頭の肉豚を市内の株式会社JAえひめアイボックスに出荷しています。

低コストで発育・肉質の良い豚

肉を提供できるように研究や実証を重ねていますが、消費の伸び悩みなど、業界を取り巻く環境は依然として厳しいものがあります。

一方で、食品問題が頻繁に取り沙汰されるようになり、消費者による『安心・安全』を求める声も年々高まっている状況です。

当農場は、『安心・安全』な豚肉を提供するためさまざまな対策を講じています。まず、衛生管理を図るため入場車両に対し、消毒設備を設けています。また、豚は病気にかかりやすいため畜舎環境の充実や、臭気対策として日本で初めての脱臭システムを取り入れ、環境対策にも力を入れています。

今後とも、地域密着型の企業として、安心・安全で高品質な豚肉を消費者にお届けし、地域に貢献する農場を目指してまいります。

▽所在地 平野町平地
乙2330・2
▽電話 ②31522

文化財

堀城跡
大洲市指定史跡
春日神社所有



本城跡は、肱川山鳥坂地区の河辺川が大きく蛇行する部分の山上に所在しています。城跡は、現在春日神社本殿が建っている本丸跡を楕円形の二の丸がとり巻き、三方は急峻な崖で眼下の河辺川を天然の堀とした堅固な要害でした。

16世紀後半頃は和氣氏が城主で、その後は菅田城主の大野直之が城主になったと言われています。大野直之は、大洲地蔵ヶ嶽城主宇都宮氏の重臣で、後に主君の宇都宮氏を追放して地蔵ヶ嶽城主となった人物です。小早川隆景軍との戦いに敗れた際に、堀城に落ち延びて最期を迎えたと伝えられていて、その時に所持していたとされる脇差が山鳥坂村庄屋家に伝来し、現存しています。

(昭和49年3月16日指定)

野鳥

ノビタキ（野鶺鴒）
スズメ目ヒタキ科
大きさ13cm



開けた農地や河川敷で9月末～11月にかけて出合える、つぶらな瞳が特徴のかわいい小鳥です。薄茶色で地味ですが、夏羽は頭巾を被ったようで、黒い頭に真っ白なお腹をしています。繁殖が終わると目立ちにくい色合いに変わります。

十数年にわたり秋の飛来日を観察していますが、9月20日前後を目安に、若鳥や幼鳥がやって来て、その後、夏羽の少し残る成鳥が渡って来ます。その誤差は1週間以内で、いくら温暖化が進んでも変わらない彼らを見ていると、文明に支配され人間本来の五感を失った我々は、どこに向かっているのでしょうか。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト④

大洲の食育

～大洲市食育推進会議～

「大洲市食育推進計画」では、

①家庭・学校・地域等の連携に支えられた食育の推進

②地元農林水産物の活用と食文化を生かし受け継ぐ食育の推進

③ライフステージに応じた食育の推進

を基本方針として、各担当課が役割分担しながら推進しています。

大洲市保健センターでは、平成19年10月に「大洲市食育推進会議」を設置以降、定期的に会議を開催しています。推進計画の作成や各担当課で実施・計画している食育推進事業が、総合的かつ計画的に推進されているか、委員のみなさんに審議していただいています。そこで出された意見は、評価指標の達成に向けて市全体の施策へ反映させています。

今年度は、6月28日(金)に専門委員会、7月4日(木)に委員会を開催し、主に「第2次大洲市食育推進計画」策定について話し合いを行いました。

このように、大洲市民が生涯にわたって健康で楽しく、心身ともに豊かな人生を送ることができるよう会議を積み重ねています。



専門委員会



委員会

おおずの女性 ～輝いて今～

地域の伝統を次世代へ ～大洲・長浜・肱川・河辺音頭振り付けガイド作成事業～

大洲市連合婦人会では、平成25年度大洲市がんばるひと応援事業補助金を活用して、「大洲・長浜・肱川・河辺音頭振り付けガイド作成事業」に取り組みました。

この事業は、高齢化により踊り手などが減少している現状を受け、振り付けガイド冊子を作成することで、今後市民の間で音頭を広く伝承できるようにするためのものです。

今回、各地域の音頭を改めて一から調査し、それらを一冊にまとめたイラストによる振り付けガイド冊子が完成しました。作成に携わった大洲市連合婦人会の三好会長は、「新しく分かりやすいガイドを作成できたことで、今後市民運動会だけでなく地区の盆踊りなどのイベントでも、多くの人が気軽に踊れるようになる。また、他市との交流イベントの際にもたくさんの市民が踊れるようになることで、大

洲市全体の盛り上げにつなげていきたい。それぞれの4つの地域がつながり、さらに『絆』を深めあって活動できることを願う」と述べられました。

この冊子に関する問い合わせは、中央公民館までご連絡ください。





9月30日(月)

サツマイモの収穫

～閉校した小学校の跡地利用開始～

平成24年3月31日をもって閉校となった櫛生小学校の花壇を利用して、地元自治会女性部メンバー（女性学級）がチューリップ、サツマイモなどを植栽しました。

今年9月には、初収穫となるサツマイモを掘り出し、地元産直市「姫祭市」で出荷販売をしたところ見事完売しました。

今後は、石焼き釜の体験ピザ作りなどの事業を展開し、地域の活動を強化していく方針です。



8月26日(月)～9月6日(金)

地域医療を感じて in 河辺診療所

～自治医科大学医学生地域医療実習～

自治医科大学5年生の村上^{たいせい}大晟さんと北田^{りょうすけ}遼佑さんの2人が、河辺診療所で地域医療の実習を行いました。

実習では、診察を中心として中島医師が熱心に指導されました。訪問診療や特老回診などさまざまな体験を通じて地域医療の現状に触れ、有意義な実習になりました。

今後、愛媛で地域医療に携わる医師が増えることを期待しています。



10月1日(火)

今シーズンもありがとう

～鵜感謝祭～

平成25年度のうかいシーズンが無事終了し、シーズン中活躍した鵜の労をねぎらおうと、肱北河原で鵜感謝祭が行われました。

57年目を迎えた今年のうかいは、天候に恵まれ稼働日が増えたことと、地元の利用者が増えたことで前年度よりも約1,100人多い、8,526人がうかいを楽しみました。

参加者から好物のアユをごちそうしてもらった鵜たちは、「来シーズンも頑張るぞう」と言っているようでした。



9月21日(土)

ふるさとの香りをいっぱいのせて

～肱川イベント松山広場～

肱川の特産や文化を多くの人に知っていただく「肱川イベント松山広場」が、たくさんの観光客でにぎわう道後温泉街の玄関口にある「放生園^{ほうじょうえん}」からくり時計前で、今年も開催されました。

会場では、肱川の農産物や加工品などの販売やもちまき、郷土芸能「山鳥坂^{しめ}鎮縄神楽」の公演が行われました。

晴天の下、今年で25回目となったこのイベントは、今回も多くの人に肱川の魅力にふれていただき、大盛況となりました。